

豊能医療圏
がん医療ネットワーク協議会
活動報告〔令和4年（2022年）3月15日〕

市立豊中病院

大阪大学医学部附属病院

組織図



【参加団体】

- ◆ 医師会
- ◆ 保健所
- ◆ 市町がん検診担当課
- ◆ ホスピス・在宅診療所
- ◆ 大阪府訪問看護ステーション協会
- ◆ がん診療（連携）拠点病院

がん登録部会

【部会活動のメインテーマ】
網羅的で精度の高いがん登録の実施

【令和3年度（2021年度）活動報告】

1. 院内がん登録データを用いた現状分析

- 肝がんベンチマークについて
- 豊能医療圏8施設の2017年～2020年症例の院内がん登録データから、地域、進行度や治療内容等のベンチマークを作成し、自施設の登録状況の把握、豊能医療圏での肝がんの現状等について比較分析を行った

がん登録部会

【令和3年度（2021年度）活動報告】

2. 豊能二次医療圏におけるコロナ禍のがん医療への影響についての報告

- 大阪府からの依頼の基づき「コロナ禍のがん医療への影響」について2019年、2020年症例の院内癌登録データから患者数、年齢、進行度や治療内容等のベンチマークを作成し、コロナ禍のがん医療への影響について検討を行った

緩和ケア部会

【部会活動のメインテーマ】
緩和ケアの普及

【令和3年度（2021年度）活動報告】

1. 緩和ケアにかかる地域医療機関との連携強化

➤ 地域連携情報シート（リレーシート）の運用

【昨年度の部会で出された運用における主な課題】

- ・未記入項目が多く、参考にならない場合がある
 - 紹介状等で十分情報を得られる
 - 大事な情報は往診時に確認している



シート作成に当たり話し合いを重ねてきたことで、治療の場が変わっても共有したいことや、通常の病状経過を超えた緩和ケアの視点での事項を先方に伝えることが、シートを使用しなくてもできるようになってきている部分もある

緩和ケア部会

【昨年度の部会で出された運用における主な課題】

- 受療する医療機関でどのように活用されているか、緩和ケアへのメリットなどのフィードバックが必要
 - 患者さんのことが大体わかるので助かっている
 - サマリーに記載にない予後とか急変リスク、ICの内容など参考になるので助かる



ホスピス、在宅クリニック、訪問看護ステーションなどの受け手から**リレーシートは有用**とのフィードバックもある

緩和ケア部会

そのほか、シートの活用についてはらつきがある状況も伺えた

- 情報提供書の内容が統一化される利点はあるが、通常の診療情報提供書以外に別途作成の手間がかかる
- シートを要求される医療機関に対して限定的に使用されており、全体的な利用状況は低い
- 数年前から既に活用されており、現状で特に問題ない

緩和ケア部会

【今後の取組みについて 部会での意見】

- 訪問看護ステーション対象にリレーシートの研修会等を開催してほしい
- 作成側の負担と受け取る側の有用性のバランスを考え、修正等を検討する段階ではないか
- 「がん」のみが対象とあってリレーシートを作成しているが、心不全や他の疾患でも対象にしていいのか。緩和ケア加算の対象も心不全に拡大しており、部会で相談したい

【令和4年度取組み】

地域連携情報シートの活用方向性を検討

緩和ケア部会

2. 緩和ケアの普及啓発

緩和ケア研修会等への参加

【現状】

虹ねっとcom、MCSなどに各々が参加し情報交換を行っている

【部会での意見】

- 地域全体（病院、緩和ケア病棟、在宅、施設）で緩和ケアを連携して提供していく必要性が高まっている
- 積極的に活動している施設やスタッフとの意見交換等を通じた連携強化を図り、普及啓発に繋げたい



【令和4年度の取組み】

豊能医療圏内での勉強会の開催を共有できる手法として
緩和ケア部会メーリングリストを活用

緩和ケア部会

3. 新型コロナウイルス感染症拡大下の緩和ケアに係る情報交換

【感染拡大で生じた変化への対応】

- ① 患者及び家族への説明や意思決定支援、ケアの機会の減少
 - ・ ICU、COVID-19患者に限りiPadでの面会を実施している
 - ・ 予後が2週間以内と主治医・緩和ケアチームが見立てた時は病棟スタッフと相談、感染対策に配慮し、面会を許可
 - ・ 看取りの場合は終日の在室を許可
 - ・ 特に順調な経過でない場合は家族に意図的に声かけし、不安や心配を聞き出し、対応するケアが求められる
 - ・ 外来治療期から本人や家族の価値観、どこで緩和ケアを受けながら療養したいかなど希望を早めに聞いておく大切さを感じており、実践している。

緩和ケア部会

【療養の場の選択が変化したことへの対応】

- ・ 家族と過ごす時間を持てる療養の場というホスピスのメリットが減少、在宅療養を選択することが増えた
- ・ 病棟閉鎖の影響が大きく、急性期病院への入院制限がある
- ・ 在宅での看取りが増えているが、病院との連携なくしては難しいケースもある
- ・ ホスピスでも事前面談をなくす試みや、急な入院依頼に迅速に対応される機会が増えた
- ・ 各病院の対応の違い、対応可能な範囲、今後の課題やオンライン面会などの情報交換を行い、家族等への情報提供ができた

緩和ケア部会

【部会での意見】

- 今こそACPを進める意義がある
- 「病院～ホスピス～在宅医療」の連携がより重要
- 特に病院は制限に差があるため、情報共有が必要
- 本人と家族が望むのであれば、在宅療養をサポートする
リソースはある



【令和4年度の実践】

新型コロナウイルス感染症拡大下で生じた変化への対応について、**地域全体（病院、緩和ケア病棟、在宅、施設）で情報共有し、意見交換**を行う

がん検診情報部会

【部会活動のメインテーマ】
がんに関する情報の普及、
及びがん検診の受診率向上

【令和3年度（2021年度活動報告）】

1. がん教育の推進

- 各市町がん検診担当課から、各市町教育委員会への働きかけ

市町名	取り組み
豊中市	<ul style="list-style-type: none">・市立中学校3年生へ出前授業を実施（2校）。その際、がん検診のパンフレットを生徒に配布し、保護者への周知啓発を行った。・今後の取組みについては、新型コロナウイルスの感染予防に努め、教育委員会、豊中市保健所、市立豊中病院で連携を図りながら、「がん教育」の啓発を続けていくこととした。
箕面市	<ul style="list-style-type: none">・がん教育の取組みについては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、教育委員会との調整が進まず出前講座や研修会などは実施していないが、中学2年生の保健体育でがんについて学習している。また、教職員に対して外部講師によるがん教育の研修を実施する等がん教育の理解を深めている。
池田市	<ul style="list-style-type: none">・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響も有り、教育委員会を通して池田市立渋谷中学校からの依頼の1件のみの実施であった。
吹田市	<ul style="list-style-type: none">・小学4年生を対象としたキッズ健康サポーター教室で、一部がんについての話を取り入れている。今年度は1校から依頼があり実施。学校教育部では、中学校2校で、大阪府の制度を活用してがん教育を実施した。
豊能町	<ul style="list-style-type: none">・昨年度に引き続き年度当初の校長会及び養護教諭会議において対象生徒にHPVワクチン接種勧奨チラシ配付の依頼を行った。
能勢町	<ul style="list-style-type: none">・出前講座や研修会などは実施していないが、中学2年生の保健体育で、がんについて学習している。<ul style="list-style-type: none">・教科書を使用してがんについての学習・喫煙防止教室において医師によるがんやたばこの害についての学習

がん検診情報部会

2. がん医療公開講座の実施の方向性等についての検討

- 開催日の感染状況により、多くの主催者が手探りで開催し、ZoomやYouTubeの普及でオンライン・オンデマンド・ハイブリット開催も出来るようになってきている現状がある。
- これまでは部会員が講座の実施会場で役割を分担し協力して開催してきたが、新たな開催方法は専門業者への依頼も含めた検討が必要である。
- 講座開催の効果については、参加型以外の講座で開催の意義をどのように評価するかについては、直後のWebによるアンケートなどが考えられるが、回答率の低さなどにより正確な評価につながるか不明である。

→今後の感染状況の動向に応じて、開催のための最良の運営方法について、次年度も継続して模索していく方針とする。

がん地域連携部会

【部会活動のメインテーマ】
地域連携によるがん医療の充実

【令和3年度（2021年度）活動報告】

- がん相談支援センター業務における
各拠点病院の課題や問題点について
情報医共有を行い連携や改善を図る。

がん地域連携部会

〔令和3年度（2021年度）の具体的な取組み〕

【就労支援等について】

- がん患者の就労支援・両立支援について、相談件数等の状況について調査する。
- がん相談支援センターへの相談支援へつなげるまでの診療部門等の関わりについて、各拠点病院での実態の把握を行う。
- これらの情報から、就労支援・両立支援の課題、問題点等を共有し、課題等の解消に向けた取組みに検討を行う。

【がん相談支援センターの院外での認知状況について】

- 病院外でのがん相談支援センターの認知状況を確認する指標として、院外のがん患者のがん相談支援センターの利用状況について調査を行う。
- 院外に向けたがん相談支援センターの周知活動について実態の把握を行う。

がん地域連携部会

○ 就労支援等について

1. 就労相談の件数等の調査の実施

2. 各施設の取り組み

- ・院内の患者向けの周知（ポスター掲示など）
- ・職員へ向けての周知（会議等を利用した説明）

3. 効果のあった（相談へつながった）取り組み

- ・医師、看護師などの医療従事者からの案内が相談につながりやすい。

4. 課題

- ・主治医（医師）の治療と仕事の両立への理解不足
- ・患者さんにとって、治療や症状に関する優先度

緊急度が高い

- ・相談対応する部門が不明確

5. まとめ

- ・就労に関する相談支援窓口へのアクセスルートの整備が必要。

就労支援に関する新規相談件数(主たるもの)

施設名	2019年度	2020年度	2021年度(現在)
A	29件	15件	9件
B	8	5	7
C	37	31	15
D	8	18	4
E	0	0	2
F	2	0	2
G	3	17	30

比較的相談件数の多い施設に、相談件数の増加を目的とした取り組みについて具体的な内容の共有を行う。

がん地域連携部会

○ がん相談支援センターの院外での認知状況について

1. 院外患者の相談件数（割合）

施設名	2019年度 件数(割合)	2020年度 件数(割合)	2021年度現在 件数(割合)
A	289件(23%)	200件(28%)	146件(27%)
B		15件(16%)	7件(9%)
C	5件(1.9%)	3件(1%)	1件(0.5%)
D	11件(3.1%)	16件(5.1%)	6件(0.3%)
E	3件(0.04%)	3件(0.45%)	4件(0.59%)
F	16件(0.1%)	8件(0.1%)	10件(0.1%)
G	80件(10%)	94件(17%)	70件(15%)

2. 院外患者への周知方法

- ・病院ホームページでの案内が中心（各病院間で手法に大きな違いはない。）
- ・豊能医療圏がんネットワーク協議会のホームページには、各病院のがん相談支援センターのサイトへのリンクは存在する。

3. 認知度の向上に向けて

- ・入通院している病院以外に、相談窓口があることの周知が必要。



各施設のHPを活用し、豊能圏域のがん相談窓口の照会など、周知方法について次年度以降検討

がん研究部会

(1)小児がん対策

● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

大阪大学医学部附属病院は、2019年に大阪府小児がん拠点病院の認定、厚労省認定小児がん連携病院を受け、小児がん拠点病院を含む大阪府内の小児がん診療施設と連携し、小児がん患者の質の高い診断・診療に取り組んでいる。

特に骨軟部腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫および肝移植の必要な肝芽腫については大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科、脳神経外科と連携して治療にあたっている。

血液・悪性腫瘍やその他の疾患に対する造血細胞移植も積極的に施行しており、血縁、非血縁（骨髄バンクなど）、臍帯血のすべてに対応している。

2020年からはキメラ抗原受容体（CAR）-T抗原療法認定施設として、難治性血液疾患・悪性腫瘍の治療に取り組んでいる。

AYA世代のがんに対しても積極的に加療を行っている。

妊孕性温存については、生殖医療センターと連携し、治療提供を行っている。

長期フォローアップ外来を通じて、一生を通じて質の高い生活を送ることができるように医師、看護師（研修会受講済）、臨床心理士、薬剤師、チャイルドライフスペシャリストなどの多職種による支援を行っている。

がん研究部会

(2)骨髄移植および臍帯血移植の推進

● 骨髄移植および臍帯血移植の現状

同種造血幹細胞移植の件数は年間27件（2021年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁、骨髄バンク、臍帯血のすべてに対応しており、骨髄バンク及び臍帯血移植が3/4を占めている。また造血器腫瘍に対する免疫細胞治療としてCAR-T療法を2020年より開始し、2021年は8件施行している。

(3)がん研究の推進

● 多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキュール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

● 臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。未来医療開発部の支援の下、がん薬物療法の治験治療等、質の高い臨床研究を推進している。

がん研究部会

● がんゲノム医療中核拠点病院

- ・「がんゲノム医療を総括する部門の設置」として、がんゲノム医療センターを設置し、平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を受け、令和2年3月に引き続き指定を受けた。
- ・平成30年10月より先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を開始し、令和元年9月末にて受付を終了した。（200例予定、199例登録）
- ・令和元年9月中旬より保険適用となった2種類のがん遺伝子パネル検査の受付を開始し、令和3年8月、新たに保険適用となったがん遺伝子パネル検査（FoundationOne Liquid CDx）を同年9月から受付を開始した。
（令和元年：96件、令和2年：224件、令和3年：242件）
- ・令和元年10月から、国立がん研究センター中央病院が調整事務局となり実施する「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的薬治療に関する患者申出療養（受け皿試験）」が特定臨床研究として開始された。当院も協力医療機関として承認され、受付を開始している。
- ・令和元年9月にがんゲノム医療拠点病院が、全国に34施設指定された。当院は令和2年4月時点で、がんゲノム医療拠点病院（全国3病院、うち大阪府下2病院）、及びがんゲノム医療連携病院（全国8病院、うち大阪府下5病院）と協力して、がんゲノム医療の社会実装を推進している。
（協力している大阪府下7病院：【拠点】大阪国際がんセンター、近畿大学病院
【連携】大阪市立大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院）

がん研究部会

(4)先進医療の推進

●以下の先進医療を現在実施中である

(R4.1.1)

- 1.パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法（先進医療B）※
終了予定
- 2.テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）
- 3.術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）

がん研究部会

(5) 人材育成

- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
(大学院)

83名が在学中

(薬物療法、放射線治療、外科治療、緩和医療、医学物理、がん病理、細胞診、がん看護、小児がん、ゲノム医療、創薬など)